

科目名称	保育実習（施設）
授業コード	BM266
英語名称	Childcare Training 1
学期	2024年度後期
単位	2.0
担当教員	渡辺 令子, 呂 暁丹, 杉本 信
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	ディプロマポリシーに掲げる「3. 子どもに対する観察・理解力を身に付けるとともに、発達や育ちを基に指導計画を立案し、省察、改善まで行うことができる。【子ども理解・保育を实践する力】」に関する科目として、保育士としての職務や役割への理解、保育内容・援助技術を深めるため、施設(児童福祉施設等)で10日間の実習を行う。本科目は保育実習指導（施設）の事前指導の位置づけでこの授業を行う。卒業後の職業生活上に必要な汎用的技能を獲得するための科目でもある。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本学教員の渡辺（元公務員保育士。保育所・障害児通園施設の実務経験、保育行政・相談援助窓口等管理職経験）が担当間及び施設と連携を取りながら、学科教員と非常勤講師により巡回訪問指導を行う。
到達目標	カリキュラムポリシーの「6. 学び得た保育の基礎知識、身に付けた技能を実際の保育現場において実践し、新たな自己課題を見出す科目（保育・教育実践に関する科目）」の目標に達するために、以下の目標を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・保育士として必要な知識・能力・技術を実践で身につける（気づく、学ぶ、試みる）。 ・施設（児童福祉施設等）におけるニーズを理解し専門職としての判断力を培う。 ・施設（児童福祉施設等）における組織の運営や組織内外との連携などを学ぶ。
計画・内容	<p>保育実習（施設）における実習の目的や意義を理解し、保育士の役割と職務のあり方を学ぶことにより基礎能力の養成を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育実習指導（施設）」事前指導を受講、必要書類を作成・提出し、実習施設のオリエンテーションと巡回教員事前指導を受ける。 2. 実習課題・細菌検査等の結果などの必要書類を持参し、実習を児童福祉施設等で行う。 3. 実習施設にて、一日の流れを理解し、職員と利用児・者のかかわり、日常生活のための支援方法や技術を観察する。職員間のチームワークや勤務についてなどを学び、生活介助等支援の一部を自らも試みる。さらに、部分実習等においては、実習施設の利用目的に合わせて、計画・実施・振り返りをする。 4. 実習の目標に合わせた日々の目標を実行し、自己評価と今後の課題を実習日誌にて振り返る。 5. 実習日誌には利用児・者の状況及び指導者の支援方法等の観察し、自ら実行したことを具体的に記述し、利用児・者の理解や支援のあり方を考察し深める。 6. 巡回指導教員との実習前・中・後の報告・連絡・相談をしっかりと実行する。特にやむを得ない理由での欠席、交通機関の遅延等に関する連絡においては、実習生であり社会人としての態度が取れるようにする。巡回訪問においては実習の状況や質問など積極的な姿勢で指導を受ける。 7. 実習日誌は毎日提出し、指導者の評価をいただく。指導いただいたことを翌日の実習に活かしていく。 8. 実習終了後、実習日誌に全体の振り返りを記載し、速やかに施設に提出する。さらに、感謝の意を込めてお礼状を書き、実習施設へ送る。 <p>実習巡回指導は担当教員を中心に、学科教員と非常勤講師の協力を得て、各施設に訪問し個別指導を行う。</p>

計画・内容	
授業の進め方	直接、施設に行って実習を行う。 その際、実習先の指導者および巡回指導教員の指導に従う。
能動的な学びの実施	施設の現場の現状と理論上の学修を活かし、実習日誌の書き方を通して、エピソードやケースの分析を行うことにより、施設（児童福祉施設等）の状況を実践的に理解する。主体的・能動的な態度で実習を行い、利用児・者の状況をよく観察し関わり合う中で、時系列・エピソードについて実習日誌に具体的に記載し、考察する。それらを通して、施設と保育者（支援者）の役割、利用児・者の状況を深く理解することが望ましい。
授業時間外の学修	各種の施設(児童福祉施設等)で実習する。 予習：前日の実習の振り返りから翌日の課題を明確にする(20分) 復習：実習日誌の記録を作成する(40分)
教科書・参考書	保育実習の手引き 実習日誌
成績評価方法と基準	成績評価方法と基準 <実習施設の評価> ・本学指定の実習評価表により実習施設において評価 ・5項目の5段階評価と総合評価の5段階評価と総合所見（80%） <大学の評価> ・実習日誌の提出状況、内容の記載状況（20%）
課題等に対するフィードバック	実習後の事後指導において、個別面談とグループディスカッションの講評にてフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	保育士の資格認定の必修科目である。この科目は「保育実習指導（施設）」履修と連動しており、次年度前期にて事後指導を終えた後の評価となるため、次年度前期評価とする。 また、実習中、無断欠席・無断遅刻・無断早退をした場合は、実習を中止する。やむを得ない理由による欠席・遅刻・早退が生じる場合は、必ず 実習先、巡回指導教員 実習担当渡辺に事前に連絡する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	実習施設から施設内の感染症等や本人の感染症等の事由により、実習の日程、若しくは実習施設を変更し、合計80時間以上の実地における実習を行うこととする。 成績評価方法と基準 <実習施設の評価> ・本学指定の実習評価表により実習施設において評価 ・5項目の5段階評価と総合評価の5段階評価と総合所見（80%） <大学の評価> ・実習日誌の提出状況、内容の記載状況（20%）